

20104

Door to Balloon Time の短縮に向けてERとの連携

<sup>1</sup>湘南鎌倉総合病院

三田 佐恵子<sup>1</sup>、島袋 朋子<sup>1</sup>

急性心筋梗塞STEMI 症例に於いてDoor to Balloon Timeを90分以内を目指す事は必須である。昨年、当院で来院から再灌流までの時間を調べたところ90分以内で再灌流できた患者は調査人数の57%であった。しかしカテ室入室から再灌流までは全ての症例で50分以内に再灌流しており平均では22.8分であった。そこで来院からカテ出しまでの時間に問題があると考えERの看護師を対象にアンケート調査を行った。ERの看護師でDoor to Balloon Timeを知らない看護師は68%であり、カテ出しまでの時間がかかる準備は同意書などの書類関係であった。また、ER看護師からの要望はカテ室からの患者の迎え、準備の手伝いであった。そこで、まずSTEMIを理解するために共同の勉強会を開催、ERでのカテ出し処置のマニュアル化、カテ室との協力体制をとるように調整した。勉強会、意見交換を行った後の2015年のAMIのSTEMI症例のDoor to Balloon Timeについて同じように調査した結果を報告したい